

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100267		
法人名	カルミア株式会社		
事業所名	グループホーム咲花唐山		
所在地	愛知県名古屋千種区唐山町一丁目41番地		
自己評価作成日	令和5年12月5日	評価結果市町村受理日	令和6年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和5年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、地域のイベントや行事が、再開し、利用者からも参加でき、地域の係わり深い、一年になりました。ご家族の面会も、マスク、消毒、検温をして頂き、居室での面会も再開でき、利用者からも喜んでおられます。毎月1回、全フロアの利用者とスタッフが集まり、いろんな行事やイベントも例年どうり行っています。日常的には、各フロア毎に、ADL予防をかねて、歌を歌ったり、体操やゲームなどを行っています。簡単な食事準備や、食器拭き、洗濯物たたみ等を日常生活リハビリとして、取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「笑って暮らそう、家族だね。」のもとに、職員が笑顔で利用者として接している姿が見られる。また残存能力を見つけ、維持し、活かしてもらうべく職員間で情報を共有しており、料理や家事の手伝い、繕い物などをやってもらっている。単調になりがちな事業所での生活にメリハリをつけるべく、読書の好きな人には本や新聞を読んでもらえるように、塗り絵が好きな人には塗り絵の冊子を用意してもらうなど、家族に取次ぎ一緒に支援している。コロナが5類移行し、地域交流も徐々に戻りつつある中、新規に保育園との交流ができ、今年度はハロウィーンに園児の訪問があり、利用者が園児にお菓子を手渡しすることもできたし、4年ぶりに復活した子供神輿も事業所まで練り歩いてきてくれ、利用者に笑顔をもたらした。職員間の仲もよく、穏やかな生活が送られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑って暮らそう、仲間だよね。」の理念は、各フロアをよく見える位置に貼り、職員一同、共有して、利用者様らと一緒に、楽しく過ごせるように励んでいます。	「笑って暮らそう、仲間だよね。」というわかりやすい理念はキッチンカウンターの上にも掲示されており、職員はまずこちらからの笑顔の声掛けを意識している。わかりやすい場所へ掲示されていることから、利用者も一緒に読み上げていることがあり、職員に落とし込まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域全体で行われる大掃除には、毎回参加させて頂いています。子供神輿の観戦、近くの保育園のハロウィーン企画に参加させて頂いています。	コロナ5類移行に伴い、地域との交流もまた再開されてきている。運営推進会議を通し、地域情報が得られる中、地域の大掃除に職員が参加している。復活した子供神輿は今年度事業所玄関先までやってきて利用者を楽しませた。また保育園との交流も始まり、ハロウィーンではお菓子を利用者が子供たちに手渡すこともできた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪ねて来られた方へは、丁寧に説明するように心掛けています。また、希望があれば、パンフレットやいきいき支援センターのチラシをお渡ししています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催に、咲花唐山の現状報告、施設の取り組みに、参加者の意見を伺い、施設運営に役立てています。	二か月ごとに会議が開催され、事業所の大家や訪問歯科の事務員、いきいき支援センター職員、近隣地区のケアマネなどが参加しており、地域情報や新薬の情報、災害備蓄の取り組みなどで、情報提供、意見交換などの場として活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は、電話や直接、区役所に出向いて相談しています。	利用者への共重費の助成、福祉交付金などの制度について教えてもらったり、そのほかのわからないことは直接出向いてきいたり、電話で問い合わせるなど、関係を築き、連携している。行政主体の研修に職員は参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で、身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、委員を中心に、年2回の研修会を開催して、全職員に周知徹底しています。	法人内、あるいは事業所内で内部研修として身体拘束について年に二度勉強会を開いている。当日参加できなかった職員へ資料を渡して口頭指導している。勉強会后に職員としての行動についてチェックリストで各々の支援について振り返っている。安全のために鈴を布団や靴につけている人もあるが、家族に同意を得たうえでやっている。車通りが多く、夜間は玄関に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入社員には、必ず虐待防止についての資料を渡して、説明を行っています。年2回の身体的拘束等適正化についての研修が、現場で活かされるように、注視しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修で、権利擁護と成年後見制度について、開催したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、できるだけ分かりやすいように、説明しています。説明での疑問や聞き逃した点がありましたら、気軽に問い合わせ下さいとの言葉を添えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が、面会に来られた時や、電話等で、ご意見を伺っています。それらを会議等で議題にして話し合うこともありますし、直ぐに解決できることであれば、迅速にたいおうしています。	面会時に、あるいは電話を通して家族には意見をきくようにしている。特に、終末期を迎えた利用者家族の思いにはこたえている。アンケート回答で得られた意見は職員間で周知して改善点を見つけるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催していますリーダー会議やフロア会議で、話し合いで出された意見や提案について、検討して、運営に反映させています。	日常生活の上で見つけた改善点はできることは都度、急がないことはフロア会議でとりあげ、たとえば職員からの提案で、車いすに座ってばかりいる人になるべく機会を見つけ、いったん立ち上がってもらい椅子に移ったり、座り直してもらったりし筋力維持につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が、向上心を持って働けるように、職員からの要望、意見、悩み、問題等がないか、日常的にコミュニケーションを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への参加の推奨を行い、希望される職員の参加のための休日確保等を行って、支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度まで、コロナ渦のために、同業者との交流が、思うように行えませんでした。今年度は、対面での研修会も増え、交流の輪も広がってきていると感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の前に、ご本人やご家族様への聞き取り、病院・施設・居宅のケアマネ様より、事前情報を頂いて、担当スタッフと共有し、入所しても安心して過ごせるように、心掛けて、対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談より、ご家族様のお話を伺い、質問等に丁寧に答えるように、心掛けています。その後もわからないことや疑問点が、ありましたら、連絡下さいと伝えています。来所時には、気軽に声を掛けて頂けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談や契約時には、ご本人様の好みや大切にされていること、好きな食べ物や嫌いな食べ物等の聞き取りから、ご家族様の希望等を聞き取り、その時々に必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の好んで行える作業等は、コミュニケーションを取りながら、一緒に、行うように取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、ご家族様とのコミュニケーションを図り、利用者様のことで、協力して頂けることは、お願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、電話でお話して頂けるよう、支援しています。	友人が訪問してくれる人もいて、居室で話してもらったり、今年度の事業所夏祭りで利用者に友人が浴衣を着付けしてくれたこともあった。家族とでかけ、外食を楽しんでくることもある。冠婚葬祭に家族とでかける人もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流は、日常的に行われていますが、認知症状の進行している方が、皆さんと交流できるように、職員が間に入って、一緒に、会話を楽しんでいる場面も良く見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でも、連絡を受けた場合は、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様の希望を伺い、可能な限り、希望に添えるように努めています。	日頃の様子や会話から利用者一人一人の思いや意向を把握し、職員間で情報共有して支援に繋げている。読書や塗り絵等、趣味の継続を支援したり、困りごとの解決に役立て、利用者の暮らしやすい環境作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や本人様やご家族様との会話の中から、得られた情報を職員間で共有して、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ個々のペースで、過ごして頂けるように配慮しています。ご本人様の出来ることは、楽しんで行えるよう配慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われる、フロア会議で、利用者様一人ひとりのケース検討を行い、共有して、介護計画に反映させています。	月一回のフロア会議でモニタリングを行い、6か月毎に計画書を更新している。利用者の日頃の様子や支援の内容を検討し、現状に即した介護計画を提供している。家族には面会時に意見をもらい、計画書に反映する様に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のなかでの変化を経過記録に記載し、毎日の申し送りでも情報を共有しています。フロア会議では、個々の利用者様のケアの見直しや確認を行い、計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな一日の流れは、決まっていますが、その時々状況に応じて、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流や行事への参加等は、行っていますが、個別の地域資源との協働は行っていないのが、現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時前には、個々の利用者様の情報提供を行い、往診後は、その日のうちに、各フロアと情報を共有して、ケアに反映させています。	入居時にかかりつけ医に移行しているが、元々の専門医への受診は家族と連携を図り継続する体制を整えている。眼科、歯科は訪問診療を利用し、希望に応じて受診できるように支援している。主治医、訪問看護、専門医、家族との情報連携を図り、安心できる医療を提供できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携で、利用者様の急変時に連絡し、必要な時は、駆けつけて頂いています。毎週1回の健康チェックのひには、全員の体調変化等を報告し、対処・処置方法などのアドバイスをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には、利用者様が環境の変化に少しでも馴染んで頂けるように、介護サマリーを作成しています。早期に退院できるように、訪問医師、訪問看護師に状況報告を行いながら、入院先の担当者と連絡を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケア・看取り研修を施設内外で受け、利用者様、ご家族様、訪問医師、訪問看護師、フロアスタッフ、管理者らで、その都度、話し合いながら、支援しています。	重度化や終末期への支援は、主治医、訪問看護師と連携を図り、利用者や家族の希望や意向に寄り添い支援する体制を整えている。家族の希望時に来所や宿泊でき、利用者には声掛けや清潔保持、心地よい音楽を流す等、穏やかに過ごせる環境作りに努めている。職員には看取りへの振り返りをする場を設け、終末期支援の充足に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で、スキルの向上を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	被災訓練は、年2回実施しています。地域との協力体制は、今後の課題です。	年2回、昼夜想定避難訓練を実施し、利用者を避難誘導する困難さを体験し、職員間で改善に向けて避難経路や手段の話し合いをして検討を図った。運営推進会議の際に議題に挙げ、備蓄の保管についてのアドバイスや消火器使用の体験する機会を設け、防災意識を高め連携体制を強化した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の理解とコミュニケーションの研修会を行い、職員全体で、日々の言動を振り返り、対応しています。	排泄支援の際の声掛けやドアの開閉に注意を払い、羞恥心へ配慮し支援している。利用者其々に合わせた話し方や対応方法、体調や顔色を観察し接する様努め、心地よく感じてもらえる接し方で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、利用者様との会話の中から、拾い上げたり、表出できるように、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、利用者様のペースに合わせてるように、日々努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣は、本人様の希望に沿うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いを希望される利用者様と一緒に、調理の下ごしらえや食器洗い・食器拭きを行っています。好きな食べ物のお話で、会話が弾みます。	栄養管理が行き届いた献立に合わせた食材が届き、一人一人の食べやすい形態に合わせて安全な食事を提供している。敬老会、クリスマス会等の行事に合わせた行事食は利用者の楽しみに繋げている。お好み焼き、ぜんざい等利用者の希望があれば、手作りおやつのおやつで提供している。食事作りの手伝い事や片付け等の家事に参加する姿も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は、毎日記録しています。変化が続く場合は、申し送り、検討課題にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医師の指導の下、食後の歯磨き、うがいをしています。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	といれでの排泄可能な方は、継続して行えるように、立ち上がりの生活リハビリを行っています。	排泄チェック表を活用し、利用者それぞれの排泄ペースに合わせて声掛けや誘導をして失禁の回数を減らし、排泄の自立に向けて支援している。夜間帯も利用者に合わせた対応を行い、ポータブルトイレやパット類の使用方法を変える等をして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握して、極端に少ない方には、のんでいただけるように、好みの飲み物を提供しています。排便状況や体調の変化に応じて、便秘薬を処方して頂くこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上、午前入浴を行っています。拒否が強い時は、別の曜日や時間帯で対応しています。	週3回入浴し、体調不良や気分によりその日に入れない際は翌日に入浴できる様、柔軟に対応している。浴室脱衣所には空調を設置し温度管理をし、入浴時は必ず職員が一人付き、安全に入浴できる様に支援している。菖蒲湯ゆず湯等の変わり湯で季節を感じ楽しめる様な工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は、利用者様それぞれのペースを確認しながら、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋がついてきますので、その都度、個人ファイルに綴じています。薬は一包装されていて、名前・日付・処方時間が記されているので、間違いのないように、声だし確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、ゲーム、歌を歌ったりを皆さんで行っています。夕方の洗濯たみは、テーブルを囲んで、ワイワイ言いながら行うのが、日課になっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見ドライブや喫茶店に出かけたりします。ご家族様と食事や喫茶店、お出掛けをされる方もあります。	季節や天候に合わせて、近隣の散歩の機会を作っている。玄関先に出て外気浴して気分転換を図れる様に支援している。外出の希望は家族と連携を図り実現させている。花見等の季節にはドライブに出かけ、利用者の楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、ご家族と相談して、お財布にお金を入れている方も見えますが、実際に買い物支援は行えていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は、事務所にて、電話をかけて、取り次いでいます。ご家族からの電話を取り次ぎます。手紙やはがきを出したいと希望する場合にも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や各フロアの入り口カウンターに、季節の飾りを飾ったり、壁に皆さんで作成した塗り絵などを貼って楽しんでいます。	明るく広々としたリビングは明るく日差しが入り、掃除が行き届きリラックスして過ごせる共有空間となっている。利用者の作品が展示され、フロア毎に趣が違う点が特徴で、年1回作品展として全利用者が各フロアの作品を観て楽しむ機会もある。季節の感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル席とは、別に、ソファがあり、気の合った利用者様同士で、くつろげる環境を用意しています。また、入り口付近の廊下に椅子を置いて、ひとりで過ごせるスペースも確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していたなじみの家具や小物、写真等を飾り、利用者様がくつろげる場所になるよう工夫しています。	タンスや椅子、TV等、自由に持ち込み、利用者一人一人の趣向に合わせた居室作りに努め、落ち着いて過ごせる空間となっている。掃除や空調温度管理、乾燥対策をして、心地よく清潔を保ち過ごしやすい環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でできることは、継続していただけるように、わからなくなってきたことが、不自由にならないように、できるだけ自立した生活を送って頂けるように支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100267		
法人名	カルミア株式会社		
事業所名	グループホーム咲花唐山		
所在地	愛知県名古屋千種区唐山町一丁目41番地		
自己評価作成日	令和5年12月5日	評価結果市町村受理日	令和6年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和5年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、地域のイベントや行事が、再開し、利用者からも参加でき、地域の係わり深い、一年になりました。ご家族の面会も、マスク、消毒、検温をして頂き、居室での面会も再開でき、利用者からも喜んでおられます。毎月1回、全フロアの利用者とスタッフが集まり、いろんな行事やイベントも例年どうり行っています。日常的には、各フロア毎に、ADL予防をかねて、歌を歌ったり、体操やゲームなどを行っています。簡単な食事準備や、食器拭き、洗濯物たたみ等を日常生活リハビリとして、取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑って暮らそう、仲間だよね。」の理念は、各フロアをよく見える位置に貼り、職員一同、共有して、利用者様らと一緒に、楽しく過ごせるように励んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域全体で行われる大掃除には、毎回参加させて頂いています。子供神輿の観戦、近くの保育園のハロウィーン企画に参加させて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪ねて来られた方へは、丁寧に説明するように心掛けています。また、希望があれば、パンフレットやいきいき支援センターのチラシをお渡ししています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催に、咲花唐山の現状報告、施設の取り組みに、参加者の意見を伺い、施設運営に役立てています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は、電話や直接、区役所に出向いて相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で、身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、委員を中心に、年2回の研修会を開催して、全職員に周知徹底しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入社員には、必ず虐待防止についての資料を渡して、説明を行っています。年2回の身体的拘束等適正化についての研修が、現場で活かされるように、注視しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修で、権利擁護と成年後見制度について、開催したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、できるだけ分かりやすいように、説明しています。説明での疑問や聞き逃した点がありましたら、気軽に問い合わせ下さいとの言葉を添えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が、面会に来られた時や、電話等で、ご意見を伺っています。それらを会議等で議題にして話し合うこともありますし、直ぐに解決できることであれば、迅速にたいおうしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催していますリーダー会議やフロア会議で、話し合いで出された意見や提案について、検討して、運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が、向上心を持って働けるように、職員からの要望、意見、悩み、問題等がないか、日常的にコミュニケーションを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への参加の推奨を行い、希望される職員の参加のための休日確保等を行って、支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度まで、コロナ渦のために、同業者との交流が、思うように行えませんでした。今年度は、対面での研修会も増え、交流の輪も広がってきていると感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の前に、ご本人やご家族様への聞き取り、病院・施設・居宅のケアマネ様より、事前情報を頂いて、担当スタッフと共有し、入所しても安心して過ごせるように、心掛けて、対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談より、ご家族様のお話を伺い、質問等に丁寧に答えるように、心掛けています。その後もわからないことや疑問点が、ありましたら、連絡下さいと伝えています。来所時には、気軽に声を掛けて頂けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談や契約時には、ご本人様の好みや大切にされていること、好きな食べ物や嫌いな食べ物等の聞き取りから、ご家族様の希望等を聞き取り、その時々に必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の好んで行える作業等は、コミュニケーションを取りながら、一緒に、行うように取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、ご家族様とのコミュニケーションを図り、利用者様のことで、協力して頂けることは、お願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、電話でお話して頂けるよう、支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流は、日常的に行われていますが、認知症状の進行している方が、皆さんと交流できるように、職員が間に入って、一緒に、会話を楽しんでいる場面も良く見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でも、連絡を受けた場合は、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様の希望を伺い、可能な限り、希望に添えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や本人様やご家族様との会話の中から、得られた情報を職員間で共有して、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ個々のペースで、過ごして頂けるように配慮しています。ご本人様の出来ることは、楽しんで行えるよう配慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われる、フロア会議で、利用者様一人ひとりのケース検討を行い、共有して、介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のなかでの変化を経過記録に記載し、毎日の申し送りでも情報を共有しています。フロア会議では、個々の利用者様のケアの見直しや確認を行い、計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな一日の流れは、決まっていますが、その時々状況に応じて、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流や行事への参加等は、行っていますが、個別の地域資源との協働は行っていないのが、現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時前には、個々の利用者様の情報提供を行い、往診後は、その日のうちに、各フロアと情報を共有して、ケアに反映させています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携で、利用者様の急変時に連絡し、必要な時は、駆けつけて頂いています。毎週1回の健康チェックのひには、全員の体調変化等を報告し、対処・処置方法などのアドバイスをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には、利用者様が環境の変化に少しでも馴染んで頂けるように、介護サマリーを作成しています。早期に退院できるように、訪問医師、訪問看護師に状況報告を行いながら、入院先の担当者と連絡を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケア・看取り研修を施設内外で受け、利用者様、ご家族様、訪問医師、訪問看護師、フロアスタッフ、管理者らで、その都度、話し合いながら、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で、スキルの向上を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	被災訓練は、年2回実施しています。地域との協力体制は、今後の課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の理解とコミュニケーションの研修会を行い、職員全体で、日々の言動を振り返り、対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、利用者様との会話の中から、拾い上げたり、表出できるように、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、利用者様のペースに合わせてるように、日々努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣は、本人様の希望に沿うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いを希望される利用者様と一緒に、調理の下ごしらえや食器洗い・食器拭きを行っています。好きな食べ物のお話で、会話が弾みます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は、毎日記録しています。変化が続く場合は、申し送り、検討課題にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医師の指導の下、食後の歯磨き、うがいをしています。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	といれでの排泄可能な方は、継続して行えるように、立ち上がりの生活リハビリを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握して、極端に少ない方には、のんでいただけるように、好みの飲み物を提供しています。排便状況や体調の変化に応じて、便秘薬を処方して頂くこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上、午前入浴を行っています が、拒否が強い時は、別の曜日や時間帯で対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は、利用者様それぞれのペースを確認しながら、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋がついてきますので、その都度、個人ファイルに綴じています。薬は一包装されていて、名前・日付・処方時間が記されているので、間違いのないように、声だし確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、ゲーム、歌を歌ったりを皆さんで行っています。夕方の洗濯たみは、テーブルを囲んで、ワイワイ言いながら行うのが、日課になっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見ドライブや喫茶店に出かけたりします。ご家族様と食事や喫茶店、お出掛けをされる方もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、ご家族と相談して、お財布にお金を入れている方も見えますが、実際に買い物支援は行えていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は、事務所にて、電話をかけて、取り次いでいます。ご家族からの電話を取り次ぎます。手紙やはがきを出したいと希望する場合にも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や各フロアの入り口カウンターに、季節の飾りを飾ったり、壁に皆さんで作成した塗り絵などを貼って楽しんでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル席とは、別に、ソファがあり、気の合った利用者様同士で、くつろげる環境を用意しています。また、入り口付近の廊下に椅子を置いて、ひとりで過ごせるスペースも確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していたなじみの家具や小物、写真等を飾り、利用者様がくつろげる場所になるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でできることは、継続していただけるように、わからなくなってきたことが、不自由にならないように、できるだけ自立した生活を送って頂けるように支援しています。		